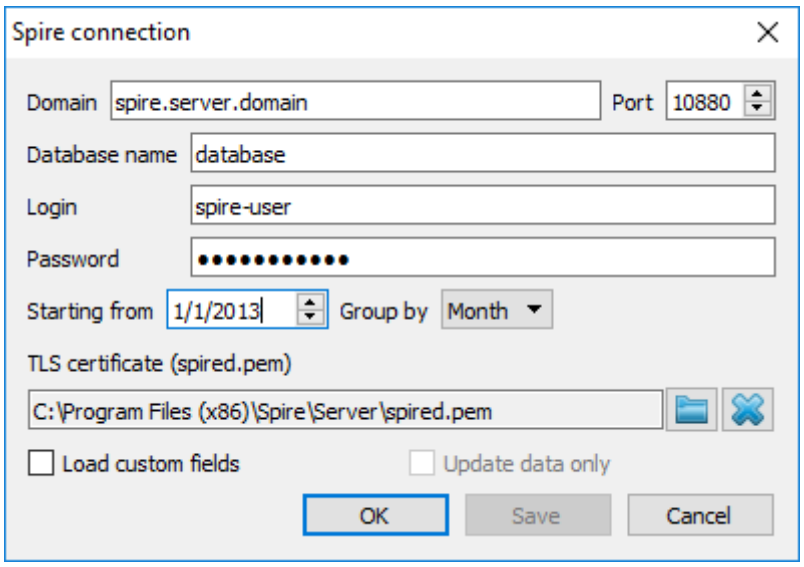
3.5.9. Spireからのデータ取得方法

Spireからデータインポートするには、メニューの**ファイル > 新規 > Spire 接続**ダイアログを開きます。

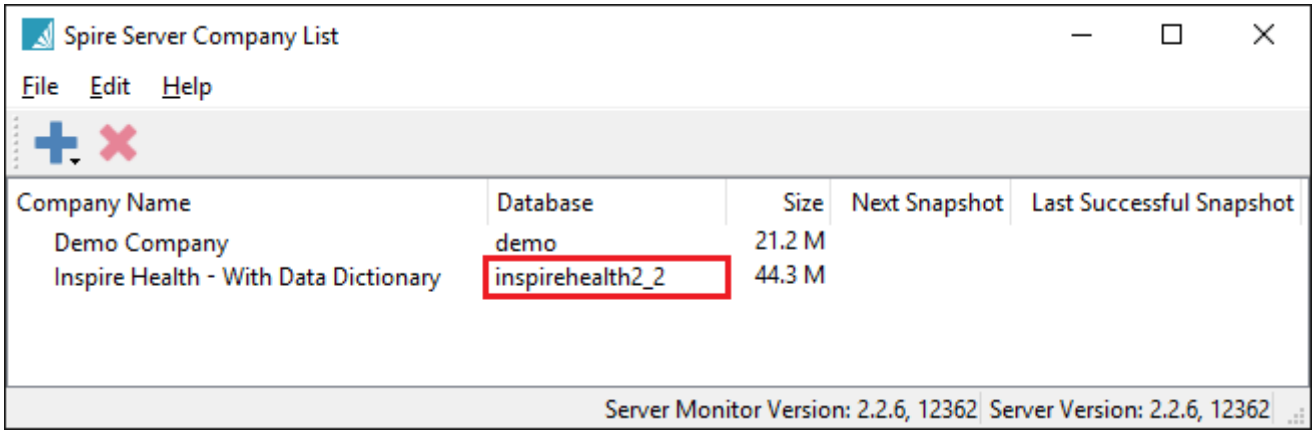


- **ドメイン**：Spire サーバーが実行されているドメイン名またはIPアドレスを入力します。Spire サーバーがローカルPCにインストールされている場合、デフォルト 値である'localhost'にしておきます。
- **ポート**：Spire サーバーのポートを設定します。GMDH Streamlineは、Spire サーバーのインストール作業中のデフォルトポートを利用します。ポートを変更している場合、そのポートを入力します。
- **データベース名**。接続したいSpire データベース名を入力します。データベース名は以下から見つけることができます。:

- Spire サーバー企業一覧 (Spire 2.10 またはそれ以前)
- Spire サーバーモニタ (Spire 3.0)

これを行うには：Spireのトレイアイコンをクリックします。Spire 3.0では、管理者ユーザー情報の入力が必要です。

接続したいSpire **データベースの 名前** を入力します。名前は、Spire サーバー企業一覧から簡単に取得できます。



- **ログイン**。データベースのSpire アカウントユーザー名です。
- **Password**. The password of the Spire account for the database.
- **Starting from** control allows you to import a slice of the data.

精度の高い予測を作成するには、GMDH Streamlineに*少なくとも24か月*の販売履歴を設定することを強くお勧めします

2020/09/29 06:44

- **タイムスタンプのグループ化コントロール データを**(日、週、月)期間で自動的に集計します。予測、購入計画や他のレポートを月単位で確認する、月単位でデータをグループ化します。
- **TLS 証明書 オプションは、**Spireが同梱しているspired.pemファイルの設定が必要です。

- Spire 2.10またはそれ以前のバージョンでは次に保存されています : C:\Program Files (x86)\Spire\Server\spired.pem
- Spire 3.0では次に保存されています: C:\ProgramData\Spire\Server\spired.pem

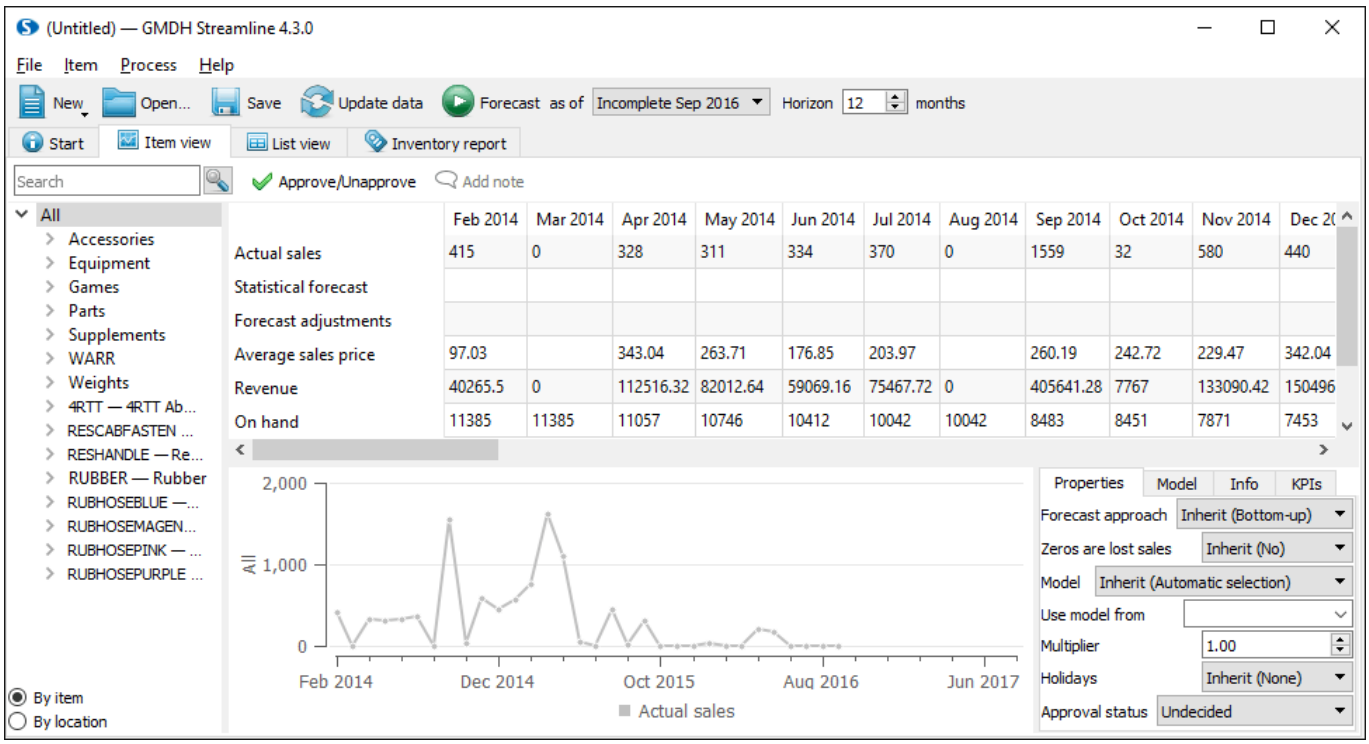
参照ボタンをクリックし、ファイルを指定します。接続先のサーバーが信用できる場合(サーバーが、イントラネットやローカルネットワークにある場合など)には、証明書の設定は省略できます。この場合、**“X” ボタンをクリックします**[1]

- **カスタムフィールドのロードオプションでは、** リードタイム や オーダーサイクルなどの、品目に関する追加的な情報をインポートできます。リードタイムは、**ユーザータイプ**フィールドからインポートされ、オーダーサイクルは、**その他**フィールドからインポートされます。リードタイムは、日単位で指定する必要があり、オーダーサイクルは、*月単位*の指定が必要です。フィールドの値は、Spireの**在庫ダイアログ**内の**詳細**タブにて設定します。



- **データ更新のみ** オプションは、プロジェクトをSpire データベースと同期します。

最後に、**OK**をクリックします。



次へ: Stitch

PDFダウンロード

1)
翻訳者注釈: 閉じるボタンをクリックして、閉じます。

From:
https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ - **GMDH Streamline Docs**

Permanent link:
https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ja:spire-connection-guide

Last update: **2020/09/26 14:25**